

久喜市を住みよい街にするために

現在、私が所属する市民部は、住民票等を発行する市民課（総合窓口）を始め、コミュニティや防犯対策などを担当する市民生活課、公共交通や空き家対策などを担当する交通住宅課、地域の総合的な窓口である各地区の行政センターを所管しています。多くの市民とふれあう機会が多く、さまざまな考えや地域の課題など、生の声を聞かせていただく場面が多いことから、市役所の業務の中でも、市民に一番近い部門であると感じています。いただいた地域の課題などは、その一つひとつをしっかりと受け止め、久喜市を住みよい街にするため、課題解決に向けて職員が一丸となって取り組んでいます。最近、市民ニーズや地域課題が複雑化しており、部を越えて横断的に取り組むことが多くなってきています。課題が難題であればあるほど、それを解決できた時の喜びはひとしおであり、その達成感を、関わった全ての職員と分かち合えることが、この仕事の魅力の1つであると思います。

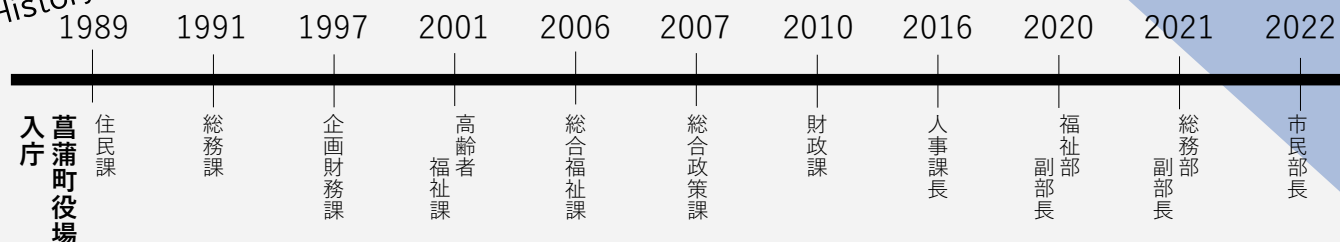
久喜市役所職員を目指している皆さん、私たちと一緒に、久喜市を住みよい街にするために、さまざまな事業に取り組んでみませんか。

理想の上司との出逢い

私には、かつて憧れの上司がいました。女性管理職が、まだ少ない時代でしたが、その人は仕事が出来て、格好よく、他人に優しく、自分に厳しい、常に正しい判断ができてブレない、理想の上司でした。その人みたいになりたくて、服装やししゃべり方を真似るだけでなく、考え方や仕事のやり方を見習い、一生懸命仕事に取り組んでいたことを今でも思い出します。ある日、憧れの上司が専門書を山積みしながら、こっそりと勉強している姿を垣間見ました。仕事出来る人でも、こんなに努力しているのだと驚きました。自分の能力に驕ることなく、常に自分の知識を高め、いつでも実力を発揮できるよう準備をしている、その姿勢を立派だと思いました。

自分もそういう年齢になり、部長職を拝命して3年目になりました。あの時の憧れの上司のように私はなれているだろうか、考えない日はありません。毎日が、新しい発見と勉強、後悔と反省の連続ですが、その積み重ねが自分の知識の層を厚くし、人として成長できるのだと信じて、一生懸命働いています。そう思えるのも、あの時、理想の上司に巡り逢えたからにはかありません。皆さんにも、是非、憧れの上司と出逢って、自らも成長をし続けながら、長く公務員人生を歩んでいただきたいと思います。

My History



現職



市民部 部長

1989年入庁(一般事務)



地図に刻んだ熱き想い、地図のその先へ

私は大学に進学する際、橋りょうや道路の整備など、将来、地図に残る仕事をしたいと考え、土木の道へと進みました。大学卒業後は、土木設計の民間会社に就職しましたが、自分が生まれ育ち、生活を送る久喜市のまちづくりに携わりたいという思いから転職を決意し、久喜市役所に土木技師として再就職しました。一般事務職とは異なり、専門職での採用でしたから、キャリアの大半は建設部に在籍し、下水道・建築・道路・都市計画など、市民の皆様が一番近い場所で久喜市のまちづくりに携わってきたと感じています。残念ながら橋りょうの整備を担当する機会は得られませんでした。都市計画道路の整備や中学校校舎の新築、保育園の新築などを担当し、地図に残る仕事をするという夢は実現することができました。

現在は、入庁以来18年間在籍した建設部を離れ、総合政策部に在籍し、市全体の公共施設の再編や統合、跡地活用の検討などを担当しています。業務の内容は大幅に変わりましたが、建設部で得た知識、特に都市計画に関する知識は、現在の業務においても非常に役立つものであり、土木の専門職であることが自分の大きな強みとなっています。土木技師に限らず、建築技師、保育士、保健師など、専門職として入庁を考えている皆さん、その知識を活かし、私達とともに久喜市の未来を築いていきましょう。

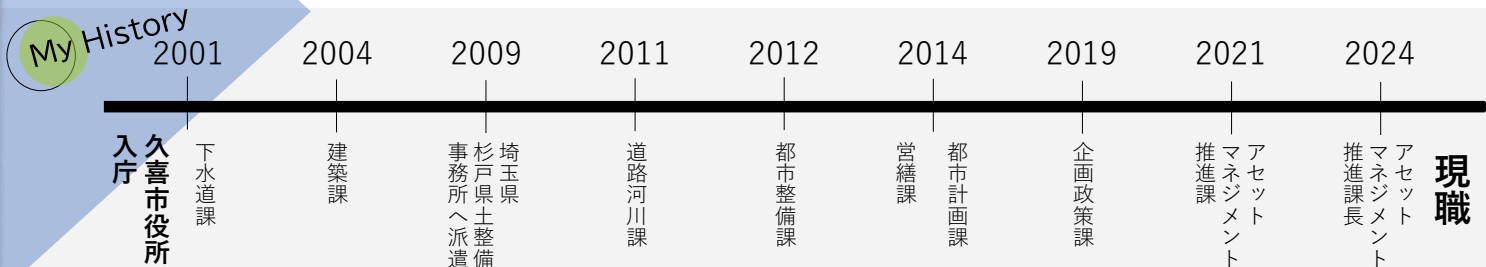
大切なことを、大切にできる職場

我が家は、妻と高校生の息子、中学生と小学生の娘の5人家族です。職場では課長として責任ある立場を務めていますが、家庭でも一家の大黒柱として、家族と過ごす時間を大切にしています。学校行事にはほとんど全て参加していますし、息子が中学生の時にはPTA会長を務めるなど、積極的に子育てを楽しんでいます。その結果、思春期の子供達とも良好な関係が築けていると自負しています。

仕事から帰宅した後は、子供達の習い事の送迎やジムで汗を流したり、時には気の置けない仲間達とお酒を嗜んだり、充実した日々を過ごしています。さらに、地元中学校の学校運営協議会委員や、久喜提燈祭りの活動をするなど、様々な地域活動にも参加しています。このように、家族や仲間達との時間、自分のための時間、地域活動への参加など、様々な活動ができることも地元の市役所に勤務することの、大きなメリットであると感じています。信頼される公務員になれるよう全力で仕事に取り組み、社会的責任を果たしつつ、充実したプライベートの時間を作ることができる、久喜市役所にはそんな理想的な職場環境があります。来年の春、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

アセットマネジメント推進課 課長

2001年入庁(土木技師)



成長できる環境がそこにある

久喜市では、総務部、健康スポーツ部、福祉部、こども未来部に保健師が配属されています。

私は、入庁当時、保健センターに配属となり、主に母子保健業務を担当させていただきました。最初は戸惑うことも多く、わからないことばかりでしたが、幸いにも先輩保健師や上司からのサポートに支えられて、業務を行うことができました。躓くことも何度もありましたが、保健師として働く上で大切なスキルや考え方を教わり、この時の経験が私の基本になっていると思っています。

その後、保健センター以外の部署に異動となり、自分自身が思い描いていた保健師とは異なる業務に戸惑うこともありました。しかし、新たな環境で一般事務職の方からは事務の知識やスキルを、他の専門職の方からは多岐にわたる支援方法や関係機関との連携方法を教えていただくなど、様々なサポートをしていただきました。

このような経験を通じて自分自身の視野が広がったことで、保健師としてより多くの方、そして様々な環境にいる方への支援が可能になったと感じています。

保健師として市役所で働くことは決して楽なことではありません。しかしそこでは、常に学びと成長の機会を得られるのだと思っています。

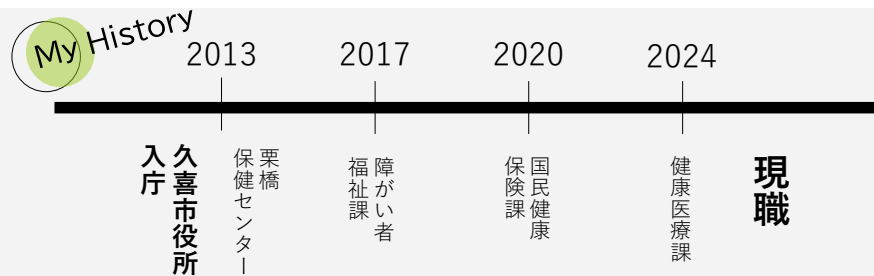
私が追い求めるもの

皆さんが仕事をするうえで大切にしたいことはどんなことでしょうか。私にとってそれは、コミュニケーションと情報共有です。今までに配属された職場での経験から、上司や先輩をはじめ同僚たちとのコミュニケーションや情報共有が、チームの結束を強くできると実感しています。

ご家庭への訪問や窓口業務の対応後は、これで良かったのかと不安な思いを感じることがありますが、「どうだった？」と一声かけて気にかけてくれることで、相談しやすく安心して業務を進められる雰囲気を作ってくれました。そのため、不安な気持ちを一人で抱え続けることがなく、上司や先輩にアドバイスを求めることができ、困難なことも乗り越えることができました。

また日ごろから、上司や先輩、同僚がそれぞれ知り得た情報を共有してくれたことで、係内の状況が理解できて連携を深められたため、よい結果に繋がってきたのだと思います。

私はこれからも、お互いを理解し協力できる職場環境を目指して、コミュニケーションや情報共有を大事にし、チームと協力しながら成長していきたいです。



健康医療課 係長

2013年入庁(保健師)